

# 役場庁舎の耐震診断結果

4月14日から熊本県と大分県を震源として発生した熊本地震では、宇土市、八代市、益城町、大津町、人吉市の5市町で役場庁舎が倒壊したり倒壊の恐れがあるとして、役場機能を他の施設に移動せざるを得ない状況に見舞われました。  
役場の庁舎は、平常時のみならず災害発生時には災害対策本部としても重要な機能を果たします。平成26年にまとめた津別町役場庁舎の耐震診断結果をお知らせします。

## 津別町役場庁舎建物概要

果になりました。

### 《耐震判定結果》

完成	昭和33年	延面積	1360・66㎡
構造	鉄筋コンクリート造・屋根鉄骨造	1階	左右方向 IsⅡ0.539×
増築	昭和42年 東側増築	前後方向	IsⅡ0.382×
平成元年 玄関増築		2階	左右方向 IsⅡ0.685○
		前後方向	IsⅡ0.446×

## ■数値上の耐震診断結果

鉄筋コンクリート造・屋根鉄骨造の庁舎は、IsⅡ0.675(IsⅡ耐震判定指標)以下では耐震性があると認められません。  
次に示す耐震判定結果のとおり、津別町役場の庁舎については、2階の左右方向以外の耐震性はないという結

## ■構造上の耐震診断結果

- ①鉄筋コンクリートの壁がない純ラーメン構造である。
- ②2階床は軟質木片セメント板上に60mmのコンクリートを打っただけであるため、剛性が低い。
- ③2階天井と屋根は鉄骨の置き屋根でコンクリートの梁などが存在しないため、前後方向の揺れに弱い。

- ④大きな耐力を発揮する耐震壁が一枚もなく、2階床と屋根の剛性が低い。
- 耐震診断業者からの診断結果に基づく耐震対策案

最も経済的で耐震性能向上効果の高い、鉄筋コンクリートの耐震壁を設置する案が示されました。  
①1階は左右方向の対策として8枚、前後方向の対策として6枚の耐震壁を設置する。

- ②2階は前後方向の対策として6枚の耐震壁を設置し、耐震壁上部の屋根に鉄筋コンクリートの梁を新設する。また、新設する耐震壁と梁の自重対策とバランスを考慮し耐震壁4枚を追加する。2階床は既存床を撤去して鉄筋コンクリートで作直す。
- ③屋根は鉄骨で補強する。
- ④仮庁舎の建設が必要。

## ■示された対策案の問題点と課題

- 問題点
- ①事務室が耐震壁で分割され非常に使い勝手の悪い建物となる。

- ②補強工事には仮庁舎建設費1億6千万円を含む総工費4億5千2百万円程度がかかる見込み。なお、別途2回分の引越費用が必要となる。
- ③仮庁舎建設場所の確保が必要。

## 課題

これらを利用性、費用面から総合的に勘案すると、庁舎の耐震化を進めることは現実的ではなく、庁舎の建替えを検討する必要があります。

## ■庁舎に隣接するポイラー煙突の耐震診断結果ほか

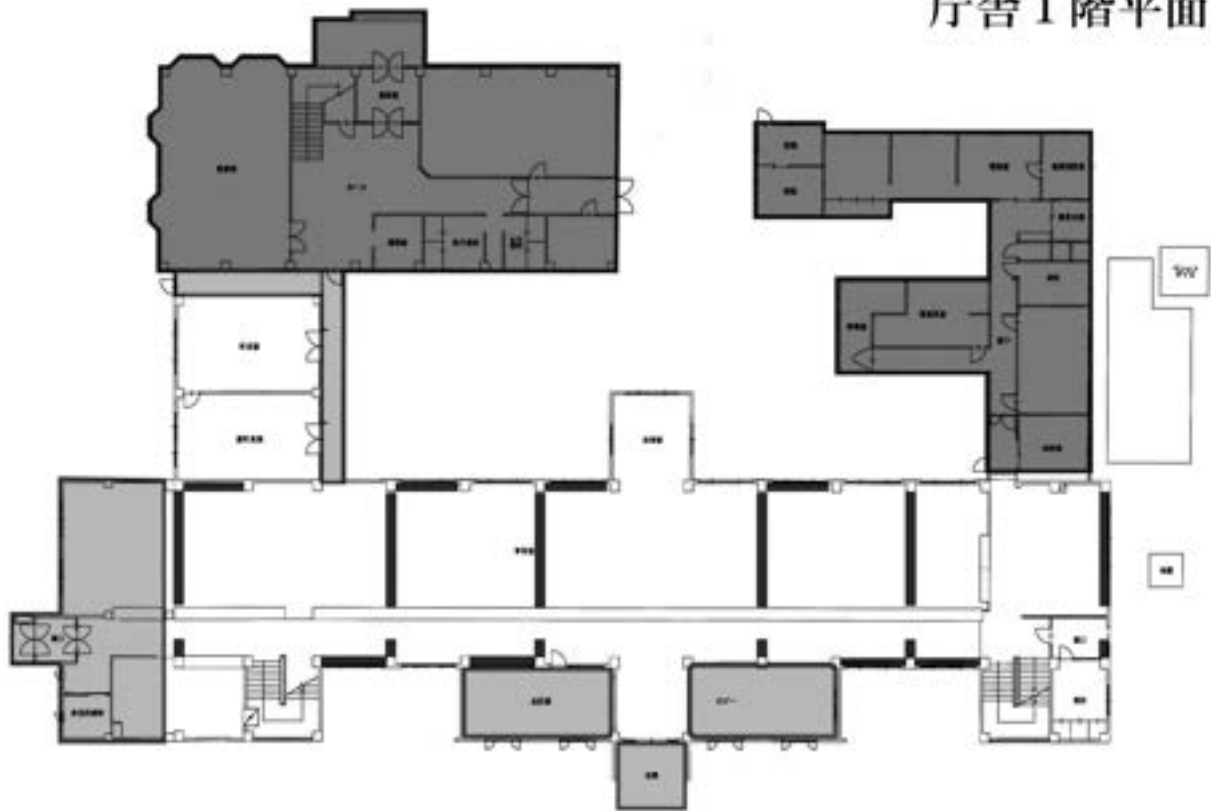
- ①全高21mに渡り耐震基準を満たしておらず、コンクリートの中性化による劣化が進行している。
- ②対策としては、ひび割れ補修後に炭素繊維シートを全体に巻く。
- ③費用は8百万円程度の見込み。

## 問い合わせ先

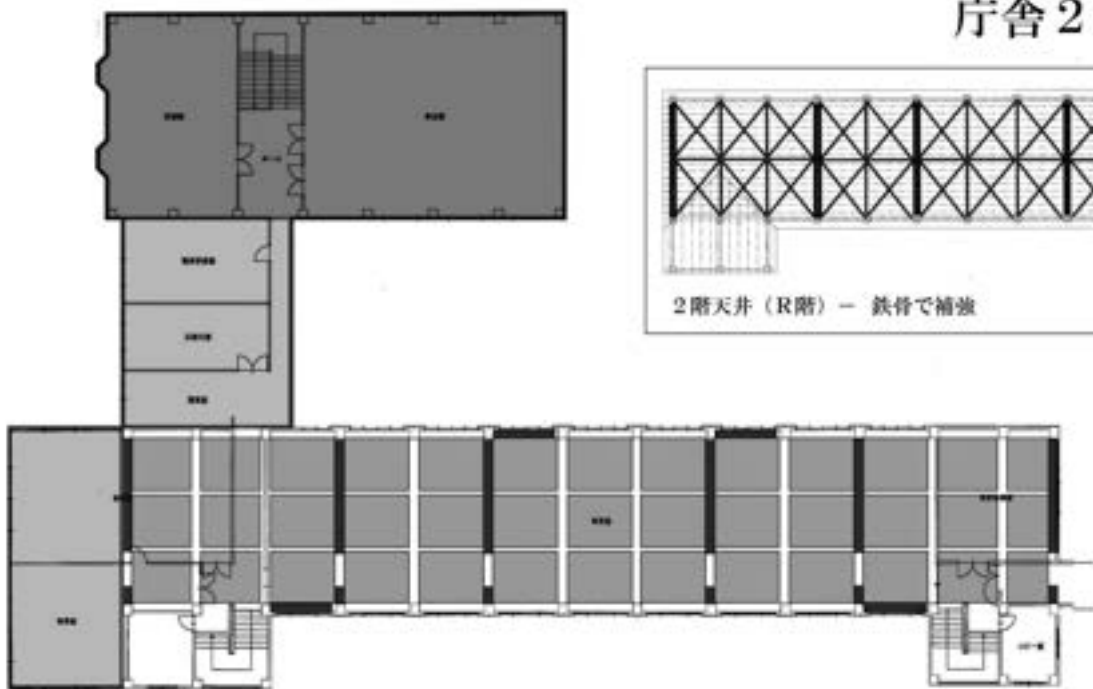
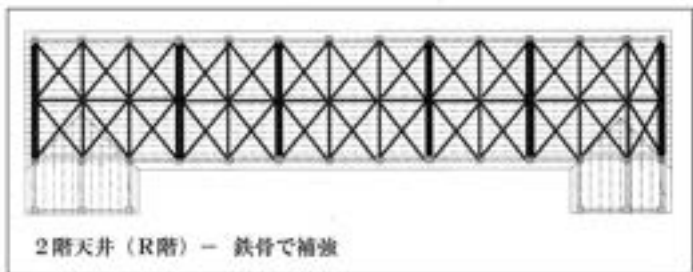
総務課 管財グループ  
☎76-2151  
(内線211)

## 耐震対策案図

庁舎1階平面図



庁舎2階平面図



- 別棟
- 増築部
- 鉄筋コンクリート耐震壁新設
- 既存床撤去、鉄筋コンクリート床新設

